

イルカの空中散歩

～ 牛深ハイヤ祭りの歴史 ～

第 272 号
担当★白波

皆さま、本日も天草エアラインにご搭乗頂きありがとうございます😊梅雨のジメジメとした季節も過ぎ、夏の暑い日が始まりました。水分補給を忘れず、体調を崩さないようお過ごし下さい🌻

さて、今回は天草の風物詩『牛深ハイヤ祭り』について紹介いたします。牛深ハイヤ祭りが誕生したのは、江戸時代後期。天草最南端に位置し、熊本県下最大の漁港基地である牛深港は入江が深く、古くから天然の良港として知られていました。海上交通の要所として、海産物などの運搬する帆船が多く出入りし、上り船・下り船の風待ち・シケ待ちなどの港として賑わっていたと言われていました。この船乗りたちと牛深の女性たちが歌い踊っていたものが牛深ハイヤ節の始まりと言われていました。

「ハエの風（南風）で今朝出港した船はどこの港まで行き着いただろうかー」歌い出しには牛深の女性が船乗りの身を案ずる気持ちが込められています。

『ハイヤ』は牛深を出港して北上する帆船に欠かせない南風が語源です。九州地方では南風のことを「ハエの風」と言いますが、ハエがハエヤになり、ハエヤがハイヤになっていったと考えられています。

そして、『牛深ハイヤ祭り』は、牛深港に寄港した船乗りたちにより、港から港へ広まっていくこととなります。牛深を出港し長崎、瀬戸内海を経由して大阪へ向かう船、大阪から日本海を渡り、新潟などを経由し北海道へ向かう北前船により、航路上の港に伝わっていき、各地域で様々なアレンジが加わり、根付いていきました。こうして『牛深ハイヤ節』をルーツとするハイヤ系民謡は、南は鹿児島、北は北海道まで日本各地で歌い継がれていき、佐渡おけさや、阿波踊りは、その代表的なものとなっています。

現在牛深ハイヤ祭りは4月に開催され、牛深ハイヤ大橋を約5000人の老若男女がそれぞれの団体に分かれて、揃いの浴衣や法被を身にまとい、踊ります。



牛深ハイヤ大橋

〒863-1992
天草市牛深町
2286-103

牛深ハイヤ大橋は、牛深漁港の海上を通り、加瀬浦地区にある後浜新漁港へと続く全長883mの県内最長の橋です。関西国際空港を手掛けたイタリアの建築家レンゾ・ピアノ氏の設計によって平成9年8月に完成しました。また、冬季にはカラーライトアップされ、観光客で賑わいます🌟

また、牛深ハイヤ祭りだけではなく、昭和41年9月の天草五橋開通記念として天草ほんどハイヤ祭りも始まりました。昭和42年から毎年夏祭りの行事の1つとして7月下旬の土曜・日曜の2日間、銀天街を中心に行っていました。平成10年には実行委員会を立ち上げ、長年の夢として掲げてきた「国道でハイヤ踊りを」という大きな目標を達成し、国道324号線の市役所前から天草信用金庫まで踊るコースに変更しました。コロナ禍で、数年は道中総踊りの開催がありませんでしたが、今年は、9月30日（土）に道中総踊りの開催を予定しております。詳細につきましては、天草ほんどハイヤ祭りホームページをご覧ください😊

天草の夏の風物詩、天草のハイヤ祭りをみなさまも是非お楽しみください🎵

夏バテ対策をして夏を乗り切りましょう😊🎵

夏バテとは、夏期の高温・多湿に対応できずに生じる体の不調の総称です。脱水や栄養不足、体の機能を調整する自律神経（交感神経と副交感神経）の乱れなどが原因で起こります。夏は他の季節に比べて沢山の汗をかくため、水分を多めにとらなくては脱水を起こします。特に高齢者は若い人に比べて元々体の水分量が少ないため、少しの脱水でめまいや動悸、意識がもうろうとするなどの脱水症状が出てしまうこともあります。また、暑さで食欲が落ちたり、さっぱりとした軽いものばかり食べていると栄養不足になりがちです。部屋の中はエアコンで冷えているのに、一歩外へ出れば蒸し暑いという激しい温度差や寝苦しきによる睡眠不足で自律神経の働きが乱れることも夏バテの原因になります。

【こんな人は夏バテになりやすい!!】

- ・夜更かしすることが多い
- ・冷房を低い温度で設定
- ・お風呂は湯船に浸からずシャワーのみ
- ・睡眠不足
- ・冷たい飲み物が好き
- ・食事の内容が偏りがち

【夏バテを防ぐ7つの対策】

- ①生活リズムを整える
- ②冷房で身体を冷やさない
- ③湯船に浸かる
- ④睡眠をしっかり取る
- ⑤適度な運動を心がける
- ⑥こまめに水分を補給する
- ⑦栄養バランスの良い食事を心がける

AMX INFORMATION



